

夢づくり協働推進事業の実施状況 17

事業名

木育でストップ・ザ・温暖化

事業の概要

木材の需要拡大は一朝一夕にはいかず、幼少期からの息の長い取り組みが必要であることから、小学校における森林・林業教育を「木育」としてより積極的に展開し、将来にわたる林業後継者の育成とグリーンコンシューマー（環境意識の高い消費者）の裾野拡大を図った。

- 1 新見市内の小学校 23 校から、「木育モデル校」を募集し、2 校において、木工教室などの木育授業を行うとともに「木」を使った卒業記念作品等の製作を行った。
- 2 地球温暖化防止を進めるためには、循環型社会の構築が不可欠であり、中でも、森林保全とそこから生産される木材を積極的に使用することで二酸化炭素を固定することが重要であることを説明した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
市（農林課・教育委員会）	学校との連絡調整
学校（モデル校）	授業時間の確保等
森林組合・製材業者等	木工材料の提供等の協力
美しい森づくりの会	木工機械器具の無料貸出
県（地域森林課）	木育の講師、必要に応じて人材・予算の確保

実施状況

- 1 木育モデル校の募集
新見市内の小学校に募集したところ、2 校から応募がありモデル校に決定した。
- 2 木育授業の実施

(1) 新見市立菅生小学校

①開催日：平成22年1月26日（火）

②開催場所：新見市立菅生小学校

③参加者：5・6年生 6名

④実施内容

ア 林業教室：地球温暖化防止と森林の役割

イ 木工教室：ミニカートボックス製作、テーブル・イスの組立



(2) 新見市立新砥小学校

①開催日：平成22年2月15日（月）

②開催場所：新見市立新砥小学校

③参加者：5・6年生 13名

成果・効果

「木を伐採すること」は自然破壊ではなく、森林の多面的機能を発揮し持続可能な林業経営と、木材を積極的に使っていくことが地球温暖化防止にとって、極めて重要であるという正しい知識を木育授業を通じ理解が図られ、将来にわたる林業後継者の育成とグリーンコンシューマーの裾野拡大につながっている。